

令和5年度

学校評価

(学校関係者評価)



山梨市立加納岩小学校

《 学校評価について 》

【 学校教育法 】

- ・学校は、学校評価を行うと共に、その結果に基づいて学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努めること（第42条）
- ・保護者・地域住民等の関係者による理解の深化と連携・協力の推進に資するよう、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供する（第43条）

【 学校教育法施行規則 】

- ・自己評価を行い、その結果を公表すること（第66条）
- ・保護者その他の関係者による評価を行い、結果を公表するように努めること
(第67条)
- ・評価結果を設置者（市教育委員会）に報告すること（第68条）

【 学校評価ガイドライン（文部科学省） 】 学校評価の目的

- ・学校運営の組織的・継続的な改善
- ・説明責任の履行と学校・家庭・地域の連携、協力
- ・教育委員会による支援、条件整備等の改善

《 本校における学校評価の実施手順 》

① 自己評価

- ・評価項目 → 校長を中心に職員会議で確認 → 策定
- ・教職員による評価の実施（1月まで）
- ・保護者アンケートの実施（1月まで）
- ・自己評価書を作成（1月～）

② 学校関係者評価

- ・保護者、地域住民が、自己評価の結果を踏まえて評価
- ・本年度の実施→学校運営協議会委員7名による評価
- ・実施期間 令和6年2月22日（木）

③ 評価結果の設置者への報告 山梨市教育委員会へ（3月下旬）

令和5年度 山梨市立加納岩小学校 学校評価

1 学校教育目標 心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成

2 評価結果

評価：5が最高 4.4以上 3.8以下

評価領域	評価項目	評価の観点	R5年度		○考察 ●改善方策
			保護者	教職員	
A健やかな体の育成	体力づくり	学校は児童の体力の実態に基づき、体力向上に関する指導を行っている。	4.1	4.3	○5月にコロナが5類に分類され、心配の中ではあったが、体育行事は予定通り実施できた。また、基本的な生活習慣や衛生管理は家庭の意識も高い。 ●今年度はコロナ以外の感染症の流行も多々あった。今後も基本的な生活習慣や衛生管理を家庭の取組みも含め気を抜かず行っていく。また、かのいわタイムも継続して児童の体力向上に努めていく。
	健康づくり	学校は、早寝、早起き、朝ごはんや衛生管理を習慣づけるよう取り組んでいる。	4	4.2	
B豊かな心の育成	道徳教育の充実	学校は道徳の授業を中心に、自立心や規範意識を育む教育を行っている。	4.1	4.4	○学力の向上には学級づくりが不可欠である。今後も学級力向上の取組を行うなど学級づくりに力を入れ、安心できる学級経営を目指していく。 ●連絡帳や電話等で児童たちの成長の様子を小さなことであっても保護者へ伝えて連携を図っていく。
	仲間づくり・集団づくり	学校は相手の気持ちを理解し、認め合い、協力し合う人間関係づくりを推進している。	4.1	4.1	
C確かな学力の育成	基礎基本の定着	学校は個に応じた指導を行い、学習内容の基礎・基本の定着に取り組んでいる。	4.1	4.4	○児童たちの確かな学力の育成に向け、個に応じた指導を行うとともにICTも効果的に使用している。また、教員のファシリテーション力もつける努力をしながら進めている。 ●より効果的なICTの活用法、教員のファシリテーション力向上に向け、今後も研修等を活用しながら取組んでいく。
	ICT活用授業改善	学校はICT機器を有効に活用し、わかりやすい授業づくりに取り組んでいる。	4.1	4	
	個への対応	学校は児童の個性や特性に配慮し、誰もが学びやすい環境や授業づくりに努めている。	4	4.4	
D生徒指導	いじめの対応	学校はいじめの未然防止や早期発見、解決等、適切な生徒指導を行っている。	3.8	4.5	○いじめの未然防止や早期発見、解決等に向け児童たちに定期的なアンケートを実施し、迅速な対応を組織的にやっている。 ●学校での指導を保護者にも充分にご理解してもらえるよう、保護者と常に連携し児童を育てていく。
E家庭・地域との連携	開かれた学校づくり	学校は地域や保護者との連携を図り、PTA活動や学校行事等の運営を行っている。	4.1	4.6	○保護者と連携しながら、各学校行事やPTA活動を行うことができた。また、学校だよりや学年だより等を通して、学校での児童の様子を共有することができた。 ●今後も学校、保護者、地域が一体となって児童を育てていきたい。
	情報の共有化	学校は学校だより等を充実し、児童の様子や学校の方針が理解されるよう努めている。	4.2	4.6	
F安全教育	安全・防災教育等の充実	学校は定期的な訓練の実施等、緊急時の行動や交通安全、生活安全の教育を行っている。	4.2	4.6	○年間を通し地震、火災、不審者の避難訓練を実施している。それらの具体的な児童の行動ができるようになり、避難時間もだんだんと短縮している。 ●災害はいつも教員がついているときに起こると限らない。自分の身は自分で守る習慣がつくように更に継続して取組んでいく。
G環境整備	学校環境整備の充実	学校は日常的に学校環境の整備に努めている。	4.1	4.3	○月1回の安全点検を全職員で行い、その都度修繕を行っている。教員が直せないところは学校運営協議会委員会の方に修理をしていただいた。非常にありがたかった。 ●設備が老朽化しており修繕箇所が多く、修繕の内容も様々ある。今後も市に修繕費等の要求を行い、大切に校舎等を使用していく。
④かがやきあい 高めあう子ども		子どもは、身近な人や家族に明るいあいさつができる。	4	3.8	○保護者の評価はお手伝いと根気強く取組むことへの評価がやや低く、教職員の評価はあいさつに関してやや低かった。 ●家庭でのお手伝いをする事積極的に取組めるよう、何事にも根気強く取組むよう、学校と家庭で連携していく。また、児童会でもあいさつ運動は行ったが、自分から気持ちよくあいさつができるように、教職員が見本を見せながら、あいさつの大切さを教えていきたい。
		子どもは進んでお手伝いをする。	3.7	3.9	
		子どもは仕事に責任をもって取り組むことができる。	3.9	4	
		子どもは何事にも根気強く最後までやり抜くことができる。	3.7	4	

①のびのび明るく 元気な子ども		子どもは運動に親しみ、進んで体を鍛えている。	4	4.1	○どの項目も達成できている。家庭の基本的生活習慣の確立と衛生管理がよくできた。 ●健康が第一である。運動に親しみながら健康な体づくりの指導を継続して行っていく。
		子どもは早寝、早起き、朝ごはんや衛生管理を習慣づけるよう心がけている。	4	3.9	
④生命と心を 大切にする子ども		子どもは学校や家庭でのきまりや約束を守ることができる。	4	3.9	○どの項目も達成できている。生活態度もよく学校全体が落ち着いて学習できている。 ●学校が通行量の多い県道に面しており、なおかつ、学校周辺の道路工事が非常に多い。それに伴い通学路の変更等が非常に多かった。引き続き、学校は工事関係者と連絡を密に行い、保護者と工事等の情報の共有や児童の安全の確保を、家庭と連携して行っていく。
		子どもは善悪のけじめがつけられ、正しいと思うことを実行できる。	4	3.9	
		子どもは相手の気持ちや立場を考慮することができる。	4	3.9	
		子どもは交通安全や生活安全等、自分の命を守る行動ができる。	4.1	4.1	
		子どもは命の尊さを理解し、生き物を大切にすることができる。	4.2	4.2	
⑦わかりあい 学びあう子ども		子どもは学校の授業を楽しみにしている。	4	4.1	○保護者、教職員ともに読書と学習準備等、自主学習の評価が少し低い傾向がある。 ●読書については、家庭でも読書ができるように読書時間の確保を引き続き声をかけていく。また自主学習は発達段階も考えつつ、個に応じた指導と授業改善を図っていく。
		子どもは読書が好きである。	3.4	3.7	
		子どもは学習の準備等を自分できちんとできる。	3.6	3.8	
		子どもは積極的に自学(自主学習)に取り組んでいる。	3.4	3.8	

保護者記述 *原文のまま

○回答がわからないところはどちらとも言えないをつけさせていただきました。
いつも子供のために色々ありがとうございます。

⇒御回答をありがとうございます。何かございましたら些細なことでも学校へ
ご相談ください。

○先生方は学習面だけでなく、生活面や環境作り等細やかな所まで幅広く丁寧に
配慮してくださっていると思います。校長先生をはじめ、先生方や職員の皆様のお
陰で安心して子どもを送り出すことができとても感謝しています。

⇒校舎も老朽化が進んでおり不都合な部分もありますが、少しずつ直し、今後
も環境作りに努めてまいります。また今年度は学校運営協議会の委員さん
が、細かい修繕等をボランティアで行ってくださいました。心から感謝してい
ます。

○低学年の段階でいじめの芽を摘んでいただけたらと思います。毎日、子供が楽
しく元気に登校出来るのは先生方のお陰です、いつも、有り難うございます。

⇒いじめのない居心地のいい学校を目指して、いじめの早期発見をに努めてい
ますが、そのような中、ご家庭で何かお気づきなことやお子さまのつぶやき等
があった場合は是非、教えてください。保護者の皆様と連携を図り、いじめの
根絶に向け取り組んでいきます。

○お世話になっています。安心して学校へ通わせられます。日々子供の成長におい
てお褒めの言葉を頂き感謝しています。ありがとうございます。

○お世話になっています。日々安心して学校へ通わせられています。細やかな配慮
に感謝します。ありがとうございます。

⇒子どもはもちろんのこと大人も褒められればうれしいもので、やる気も格段
に上がります。日々の生活の中で少しの事でたくさん誉め言葉のシャワー
をお子さまに浴びさせるように教職員も務めて参ります。

○通学路のコースが変わったときは付き添いをしていただきありがとうございます。
ICT化が進んでいますが、小学生の時は紙と鉛筆での勉強を大事にして欲しい
と思っています。幼保小連携でスタートカリキュラムに力を入れている学校の紹
介を知る機会がありましたが、加納岩小ならもっと取り組みを工夫できるのでは
ないかと期待しています。様々な子ども達が個性を認め合いながら楽しい学校生
活が送れ、自主性や協調性が育つような教育を期待しています。

⇒今年度は学校周辺の工事が非常に多く、通学路の変更が多々ありご迷惑をおかけしています。また、ICT活用推進が行われていますが、それに振り回されないよう、アナログの方がいい場合は、ICTとアナログを使いハイブリットで指導していきます。学習指導の目標は「ICTを使うこと」ではなく、「児童は何がわかったか、何を学んだか」ということです。このことを肝に銘じて学習指導を行っていきます。幼保小連携でスタートカリキュラムの取組みや、多様性を認める教育も行っていきたいと思います。

○学校の様子が、学校に行く機会が減っていて、保護者には分かりにくくなっていると思います。

⇒今年度は5月にコロナが5類に移行してから様々な学校行事の参観を行ってきました。しかし、時期によっては、コロナだけでない別の感染症も流行ってきました。今後も児童の安全を第一に考えながら、たくさんの保護者のみなさまが学校においていただける機会を増やしていきたいと思います。

○子供の得意・不得意をしっかりと見て把握して指導して下さっているのが日頃のやり取りの中でよく見えるのでとても安心しています。学習面以外にも子供たちの安全面(登校中等)についても連携をとって対応して下さい感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。1年生で初めての行事が沢山ある中、わからないこと等、どの先生に聞いても丁寧に親切に案内して下さい感動しました。

⇒学校は児童の安全を第一に考えていますが何か危険な個所や、危険な様子がありましたら教えてください。

○学級の人数が多いこともあるかもしれないが、個々に応じた対応ができているとは思えない。いじめ問題に関して話は聞いてもらえたとしてもその後の対応や動きがないのであれば意味がないと思う。なによりその後の対応や動きについて子ども自身が『対応してもらえた』『味方になってもらえた』という安心感につながっていないのであれば意味がない。他にも一部の生徒が授業中除け者扱いする・仲のいい子だけ優遇するといった接し方が散見されるようで、子どもの学びにも影響していることが不安点。そのような接し方は学びだけでなく子どもの心にも影を落とす行為だが、子ども自身の耐性や家庭でのケアに全て任されているようで少々疑問を感じる。それを踏まえると道徳の授業は意味があるのか？結局教科書上の内容をなぞって心に響かなければ意味がないように思う。なかよしタイムや加納岩タイムなど子どもには大変苦痛のようで参加しないという選択権がないのはどうなのか。強制参加の時点で個々に沿った教育とはいえないと思うがどうか。

⇒全国の学校が定数の中で学校の運営を行っているので、本校も学級の人数は言い訳にはならないと思っています。そのような中、いじめの問題に対応できていないことは非常に残念でなりません。定期的ないじめ発見のアンケートを行い、聞き取りをして個々に対応し、解決に向けていますが、それが十分に機能していないという貴重なご意見ありがとうございます。いじめの問題に関してはご家庭と連携し解決していくことが重要ですが、それが連携でなくご家庭とお子さまだけで終わってしまっていることは早期解決に結びつきませんし居心地のいいクラスづくりになっていません。ご心配をおかけしております。お子さまや保護者の方の教育相談は担任だけでなく、学年主任はもちろんのこと、他学年学級教員、保健室、管理職、スクールカウンセラー等、誰にでも相談をいただきたいと思います。解決に向け一歩を踏み出せるようにご協力をお願いいたします。なかよしタイムやかのいわタイムの参加はもちろんのこと、その他のことも遠慮なくご相談いただきたいと思います。

○子どもの学びが定着するよう工夫してくれている様子が見受けられるのでそこは大変ありがたく思っている。ただ、家庭からの意見や疑問などを聞くつもりがない学級懇談会であれば開く必要はないのでは？紙にかかれたことをなぞるだけであればこれまで通りの書面開催で良い。学級懇談会を開くのであればきちんと聞く耳を持った状態で開催していただきたい。こちらは普段聞けないことや活動についてどういう意味があるのかを聞きたいわけだし、他のご家庭がどう感じているのかいろいろな意見を聞きたいから参加している。担任も保護者も互いに安心安全に意見交換ができる場であるということが保証されないのであれば開催する意味はないと思うがどうか。前例踏襲するのみであれば廃止した方が良い。貴重な時間を割くのでそのあたりをはっきりしていただきたい。

⇒お忙しい時間を学校に足を運んでいただくことはありがたいことですし、とても貴重な時間です。学級学年懇談、個人懇談等のご指摘の通り、ご家庭からの意見や疑問などを聞く機会ですし、学校としましてはご家庭の様子も教えていただける機会となります。また保護者の方同士の意見交換の場でもあります。ご指摘の通り、紙にかかれたことを伝達するだけであれば書面開催で行えます。保護者の方の貴重なお時間を意味あるものとし「学校に行ってよかった。」と思えるような懇談会にしていくように改善していきます。

○ご指導ありがとうございます。息子は日頃より学校が楽しいと言っています。先生方のご配慮のおかげだと感じています。
卒業まであと3ヶ月、沢山の経験をさせていただいた小学校生活、心配したこともありましたが、6年間に関わってくださったすべての先生方に感謝いたします。

ありがとうございました。

⇒お子さまが「楽しい」と言うのはお子さまが自身が頑張っている表れだとも思います。正直、もう少しで卒業と思うと寂しさもありますが、残りの日々を教職員も大切にしていきます。

○いつもありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

⇒何かございましたらお話しください。

○教育とは少し違うかもしれないが、子供の数が減っているのでクラスから選出する役員の数も減らして欲しい。他校に比べ役員が多いと思います。子供の数が少ない地区は学校での役員の他、地区の役員も1人の子供に対していくつもやっている。うちもそうですが、更に消防団員としての活動もある家は物凄く大変です。(消防団員もやりたくてやっているわけではなく、やる人がいないからやっている状況)

⇒PTA本会にもつなげて相談してきたいと思います。

○4年生の见えない部分のいじめに関しては表面化しづらいので指導が難しいと思いますが両担任の先生方は一生懸命に子供の気持ちを育てようと指導していただいています。ありがとうございます。男の子が多く指導が難しい生徒が多いかと思いますが、来年は最後のクラス替えになり、子供達みんな少しでも楽しく過ごせる生徒が多くなれるといいなあと思います。いつも一生懸命に本当にありがとうございます。生徒に寄り添っていただき感謝しております。

⇒ご心配おかけしまして申し訳ございません。この件に関しましては、気をゆるむことなく、慎重にお子さまたちの様子を見続けています。また他の学年も同じように取り組んでおります。そのような中、ご家庭でお気付きの点や気になることがございましたら、ぜひ教えてください。ご家庭と連携を図り、安心できる学校を目指していきます。

○前提として、氏名を記載する理由を教えてくださいたいと思います。この評価に対する対応などが、最終的に保護者に直接フィードバックされるのであれば記載するのも理解できますが、評価者が誰かということが学校側には明らかにされるのに、保護者には全体の結果しか見せられないとしたらアンフェアではないでしょうか。もし、評価が学校側にとってよろしくない評価だった場合、児童(保護者)の氏名を確認したとき、先生方はこの評価を、さらには該当する児童をフラットに見ることができるでしょうか。疑問です。このアンケートに対する公平性が担保されないならば、保護者が、学校の状況を全て把握できないながらも本気で向き合い、本音で書くことはできないと思います。

⇒今年度より保護者の皆さまのお声をいただく機会を作りました。お名前を書いていただく理由は、責任をもってご回答いただきたいことと、もしそのご回答内容で、お子さま等に対応しなければならいとき、即対応できるようにするためです。また、学校の直接のお答えはこの場をお借りし書面でさせていただきます。せっかくのご意見ですので、全て原文のまま載せさせていただきます。評価は学校関係者評価委員(学校運営協議会委員)の皆さまです。保護者の皆さまのアンケートも学校関係者評価委員の評価も、そのまま載せてありますのでご安心くださいますようお願いいたします。

○学校は道徳の授業を中心に、自立心や規範意識を育む教育を行っている。道徳の授業参観に伺いましたが、例えば、大多数の意見と少数の意見がどちらもあった場面で、深い対話や議論がなかった、とくに少数の意見に対してフォローがなかったことが気になりました。あのような授業が大多数だったとしたら、自立心はどのように育つのだろうと、疑問に思います。もしかしたら、「多数の意見が正しい」という規範意識はしっかり育つかも知れませんが。

⇒道徳科に限らず他教科や特別活動や学校生活の中での議論は大切にしたいと考えています。児童はその議論から学んだり、もちろん学びが広がり、自らの考えを確かなものとしていきます。そこまでたどり着いていない指導になっていたのだと思います。引き続き、教職員は自らの授業を振り返り「主体的・対話的で深い学び」の3つの視点で授業改善を行っていきます。

○『学校は相手の気持ちを理解し、認め合い、協力し合う人間関係づくりを推進している。』

授業に関しては、グループワークを多く取り入れて「共に何かを作り上げる、成し遂げる機会」が増えたようにお見受けしています。「協力」の前提となる相手の気持ちを理解し認め合うための「機会」を増やしていただいているように感じ、とても感謝しています。その次の段階として、「実際に気持ちを理解し、認め合う」ということはどういうことなのか、これはもちろん家庭でも取り組むべきことですが、学校だからこそできる学びがたくさんあると思います。その1つとして、小さな喧嘩やトラブルは、それを学ぶ大事な機会だと思っています。誰もが避けて通りたいところですが、必ず起きることでもあり、なによりも、起きた時にどう対応するかが重要だと考えています。「起きたことからみんなで学び合う」学校であってほしいです。いじめの芽を摘む手段でもあると思います。

⇒何か問題が生じた場合、もちろん残念なことではありますが、それをきっかけに成長につなげたいと思います。すべての楽しいことでも苦いことでも、成長につながるきっかけとなります。ご家庭でもそのようにお考えいただい

いることに感謝いたします。

○『学校は児童の個性や特性に配慮し、誰もが学びやすい環境や授業づくりに努めている。』

誰もが学びやすいというのであれば、年齢で括られるクラススタイルや、現行のような一斉授業では、学びにくいと感じる児童も多いのではないのではないかと思います。また「みんなと同じように授業を受けられない児童は支援級に」という対応をなさっていて、それはそれで、子供にとってもメリットがあるものだという認識もあります。一方で「ネガティブな特別感」を生み出さないか心配です。当人以上に周りの子供たちへのフォローがあるのでしょうか。いっそのこと、自由進度学習が浸透して、一律の評価がなくなれば良いのに。と、いつも感じます。数年前の話ですが、都内の某モデル校(公立)では、小学5年生の算数の授業でICTを活用した自由進度学習を取り入れたところ、最終的に、教員の「一番好きな教科は？」という質問に対して「算数」と答えた児童が多くなったという事例があったそうです。私としては、この回答がある意味全てではないかと感じました。以前、「年間の授業をこなすことでいっぱい입니다」という趣旨のことを伺いました。コロナ禍などもあり、さまざまな工夫をしてくださっていることには感謝しておりますが、何のための授業、もっと言えば、何のための学習指導要領なのかと疑問です。他の場面では「本来、学習指導要領はもっと柔軟なはずだ」という先生もいらっしゃいます。「児童の個性や特性に配慮し、学びやすいって何だろう」ということがどうということなのか、ぜひ先生がたで議論していただきたいです。もちろんそこに保護者もいることが重要だと思っています。議論してくださっているのであれば、その内容を公開していただきたいです。

⇒ご意見有難うございます。クラス編成については、公立小中学校では、法律により特別な場合を除いては同年齢による編成が原則となっています。一斉授業については、新学習指導要領にも示されておりますように、個別最適な学び・協働的な学びを実現していくための学習形態の工夫や内容検討を考える中で、授業改善も行いながら指導を進めているところです。その際、おっしゃるようなネガティブな特別感が生まれないように、学級全体として対応しているところです。自由進度学習については、いろいろな考え方があります。授業スタイルの検討も含め、一人一人に寄り添い丁寧な指導を継続していく中で、学ぶことの本質を捉えながら、学習に意欲的に取り組み、学び合い高め合う子どもたちの育成を図っていきたいと考えております。

○『学校は地域や保護者との連携を図り、PTA活動や学校行事等の運営を行っている。』

連携と言いますが、「学校がやること、スタンスにご理解ご協力ください」というだけでは連携にはならないのではないのでしょうか。

⇒ご意見有難うございます。今後、活動を行っていく際には、その意義や主旨の共通理解を十分に図った上で、協働して実施していきたいと考えております。

○登校班で、わたしが送っていても、他の子から朝挨拶が返ってこないことがあります

⇒とても残念なことです。児童会でもあいさつに問題意識を持ち、あいさつ運動をしています。「そもそもなぜあいさつが必要なのか？」児童に考えさせ、教職員があいさつの見本となるように取組んでいきます。

○これからも「名門加納岩」が続く学校であって欲しいです。

⇒歴史を誇りに思い、地域のご期待に応えられるような学校を目指します。

○ご指導いただき、ありがとうございます。子どもが、楽しく学校に通えるのは、お陰です。とても、ありがたく感じています。子どもの気持ちを理解し、寄り添ってくださる先生が側にいてくれて、とても心強いです。

⇒楽しいということで安心しました。しかしそうでない様子のときは是非学校にご相談をお願いいたします。

○ありがとうございます、お願いします、おはようございますなどの挨拶ができない子が増えていると思います。給食を食べる時間を十分に確保して欲しいと思っています。残食を減らしたり、食べたい子がしっかりおかわりして食べられるように、自分で食べる量を決められるようになど、食育、SDGSに力を入れて頂きたいです。

⇒給食の時間は準備から片付けまでで40分です。お子さまによっては少し短いようでしたら、担任に連絡帳等を使いお知らせいただけますか。平常授業なら給食の後は昼休みですので少しの時間になりますが、対応をさせていただきます。

○学校の教育に感謝しています。ありがとうございます。

○いつもご指導ありがとうございます。児童も心と身体の成長の変化が大きい時期ですが今後もご指導よろしくお願いします。教室でも何か変化があれば教えていただければ家庭でもできる指導を行っていきたいと思います。

⇒いつもご協力をありがとうございます。いいことも、そうでないこともご家庭と連携あつての学校教育だと思います。今後もお力添えをお願いいたします。

○回答回答期限を過ぎてしまい申し訳ありませんでした。

⇒今年度は初めてのアンケート方法でしたので期間の設定が難しかったです。

この期間で大丈夫な長さだったでしょうか。

学校関係者評価の記録

学校関係者評価委員会

1 実施日 令和6年2月22日(木) 午後3時00分～

2 会場 加納岩小学校 校長室

3 参加者

○ 学校関係者評価委員会(学校運営協議会委員)

雨宮 政文 会長 水上 護 副会長

志村 篤男 委員 木崎しおり 委員 武井 博 委員

仲澤 美帆 委員 中村 昌夫 委員

○ 学校職員

鶴田心(教頭) 内藤健(教務主任)

4 ご意見(抜粋)

○たくさんご意見をいただいたものを、精査して取り組みをしていくべきである。

○学級懇談について

・保護者と教師が互いに理解し合う場としても学級懇談会は必要である。

・懇談会の内容は事前に話したいことをアンケートすることもよいのではないか。

・学校評価の中身などから懇談で焦点、項目を絞って話しをしていくことも大切である。

○無記名の方がいたが、それでも声を出してくれることは、ありがたいことだと思う。

○学級づくりも大事だが、学校の中には様々なまとまりがあるので、集団づくりが大事だと思う。

○どこを評価してもらいたいのか、何を求めているのかでアンケートをつくられていくわけである。重要である客観性や普遍性の部分を学校がどういう受け止め方をするかが大事である。ここでいう客観性は、数値(表)の部分である。これに対して、PDCA を回していくことが大事だと思う。しかし今年度からこの形式で評価を始めたので、縦の比較ができなかったので来年度は比較ができることになる。